2020 Annual Report

一般社団法人 Colabo ｜ 2020年 活動報告書

「すべての少女に衣食住と関係性を。
困っている少女が暴力や搾取に
行きつかなくてよい社会に」
を合言葉に、
中高生世代を中心とする
10代女性を支える活動を
行っています。

Colabo

私たちの想い

高校時代、私は渋谷で月25日を過ごす“難民高校生”でした。家族との仲は悪く、学校でも理解しようとしてくれる大人と出会えず、街をさまよっていた私は当時、「自分にはどこにも居場所がない」と思っていました。街には同じような想いを抱えて集まっている人がたくさんいました。ファーストフードや漫画喫茶、居酒屋、カラオケの他、ビルの屋上に段ボールを敷いて一夜を明かしたこともありました。当時の私や友人たちは、家庭にも学校にも居場所をなくした“難民”でした。

そうした少年少女が、見守る大人のいない状態で生活するようになると、危険に取り込まれやすくなります。心身ともにリスクの高いところで搾取される違法の仕事、性搾取への斡旋や、暴力、予期せぬ妊娠や中絶など、目をつぶりたくなるような現実を、私はたくさん目にしてきました。友達を助けられないこともありました。

高校を中退し、このままでは生活できない、どうすればよいのだろうと悩んでいましたが、頼ったり、相談したりできる大人はいませんでした。そんな私に声をかけてくるのは、買春者か、危険な仕事か性搾取に斡旋しようとする人だけでした。それ以外に、自分に関心を寄せてくれる大人はいないと感じていました。

それから十数年が経ち、私も「大人」と言われるようになりました。今でも、そうした少年少女に路上やネット上で声をかけるのは、多くが手を差し伸べる大人ではないのが現状です。

「大人はわかってくれない」「大人は信用できない」という声には、「向き合ってくれる人がいない」「信じてくれる人がいない」という想いが込められているのではないでしょうか。必要なのは、特別な支援ではなく、「当たり前の日常」です。

私たちは、出会う少女たちの伴走者となり、共に考え、泣き、笑い、怒り、歩む力になりたいと思っています。すべての少女が「衣食住」と「関係性」を持ち、困難を抱える少女が暴力を受けたり、搾取に行きつかなくてよい社会を目指して活動を続けます。

一般社団法人Colabo
代表　仁藤夢乃

2020年度　活動概要

■相談事業

- ・相談者数 ―― 1,494名
- ・相談件数 ―― 4,461件
- ・対応件数 ―― 22,853回
- ・面談 ―― 1,616回
- ・同行支援 ―― 102回
- ・他機関連携 ―― 559件

■夜間巡回・アウトリーチ

- ・活動回数 ―― 33回
- ・声掛け人数 ―― 3,082名
- ・バスカフェ利用者数 ―― 819名

■食事・物品提供

- ・食事提供 ―― 1,768食
- ・物品提供 ―― 1,642回
- ・『難民高校生』 ―― 808冊

■一時保護・宿泊支援

- ・一時シェルター（日中利用） ―― 25名、747件
- ・中長期シェルター（一時保護利用） ―― 1名、40泊
- ・ホテル等 ―― 96名、770泊

■生活支援（中長期シェルター）

- ・シェアハウス入居者 ―― 19名
- ・生活支援 ―― 406件
- ・就労支援 ―― 92件

■サポートグループTsubomi

- ・16名（延べ278名）、112回

■啓発事業

- ・講演会 ―― 4回、453名参加

目次

■私たちの想い　1
■2020年度活動概要　2
■相談事業　3
■アウトリーチ事業「TsubomiCafe」　5
■食事・物品提供　6
■緊急時の保護・宿泊支援　7
■生活支援　8
■就労支援　9
■コロナ禍の一年　9
■サポートグループ「Tsubomi」　11
■企画展「私たちは『買われた』展」　12
■啓発事業　13
■夜の街歩きスタディーツアー　14
■メディア掲載　15
■会員・寄付・物品応援　17
■会計報告　19
■ご支援のお願い　20
■応援メッセージ　21

相談事業

相談者数 1,494 名

相談件数 4,461 件

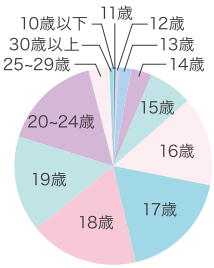
2020年度は、新型コロナウィルスの影響により、虐待や生活困窮のリスクが増したことから相談が急増。昨年度（591名）の2.5倍以上の方に関わりました。SNSで「#家出」「#泊めて」などと投稿する少女たちへ、応援者の方々が「知らない男のところに泊まるくらいなら、Colaboに連絡してみたら?」と案内したことから繋がった少女たちもいます。

相談者の属性と現状

相談者数 ―――― 1,494名（新規1,370名、継続124名）
・本人からの相談 ―――― 1,380名(新規1,256名、うち男性20名)
・本人以外からの相談 ―― 114名(友人19件、学校12件、親11件、親族2件、弁護士4件、その他66件)

■相談者の年齢（本人からの相談）（）内は昨年度以前からの継続

10歳以下 ―― 1名(1名)
11歳 ―――― 3名
12歳 ―――― 6名
13歳 ―――― 21名
14歳 ―――― 38名
15歳 ―――― 77名
16歳 ―― 158名(4名)
17歳 ―― 198名(23名)
18歳 ―― 195名(22名)
19歳 ―― 171名(26名)
20～24歳 175名(43名)
25～29歳 ― 36名(4名)
30歳以上 ―― 7名
不明 ―――― 294名

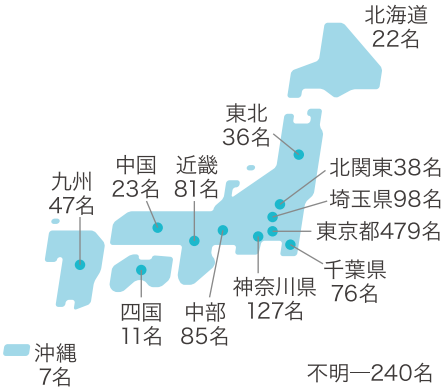


■出会ったきっかけ（新規相談）

・SNSを通して ―――― 345名
・友人の紹介 ―――― 122名
・支援者・知人の紹介 ―― 112名
・街で声をかけられて ―― 91名
・メディアを通して ―――― 42名
・HPを見て ―――― 18名
・バスカフェの近くを たまたま通りかかって ― 14名
・授業や講演 ―――― 10名
・仁藤の著書を読んで ―― 2名
・その他 ―――― 116名
・不明 ―――― 498名

■居住地（新規相談）

相談は全国から寄せられます



不明―240名

■相談内容

家族のこと
・家族関係
・虐待（身体的/精神的/経済的/性的虐待/ネグレクト）
・家に帰りたくない
・家を出たい
・家出
・家を追い出された
・居所なし
・生活困窮
・子育て
・家族や友人の自死

学校のこと
・高校中退
・進路
・友人関係
・不登校
・いじめ
・教員について

性のこと
・性暴力被害
・性搾取被害
・恋人からのDV
・妊娠・中絶
・性感染症
・セクシャリティ

その他
・就労相談
・労働相談
・公的機関の対応について
・借金・金銭トラブル
・精神疾患
・自傷行為
・死にたい
・薬物等への依存
・発達障害
・知的障害
・新型コロナウィルスの影響による虐待・生活困窮

■相談は、虐待に関するものと、性暴力や性的搾取の被害についてが多くあります。過去に児童福祉などの公的支援につながったときに、適切に対応されなかったことから不信感を抱く少女たちとの出会いも続いています。相談者に「児童相談所と関わったことはある?」と質問すると、「あんたもそっちの人間か」と厳しい目つきでバリアを張るような様子を見せたり、夜の街で声をかけたとき「保護じゃないよね?」と怯えた表情で言われたりしたこともあります。

■生活が困窮し、家庭が福祉に繋がっていながらも虐待を受け、うわばきや文具を親に買ってもらえない、給食費や修学旅行費が払えないなどの理由から性売買に関わっていた中高生との出会いや、「親の都合で学校に行かせてもらえない」、「親に怒られるから病院に行けない」という相談や「ガスや電気が止まっている」「親が家に帰ってこなくなった」「家に帰ったら自分の荷物が全部捨てられていて、家にも入れなくなっていた」などの相談も複数ありました。

■安心して過ごせる場所を持たないまま、なんとか生き抜こうとする中で、危険に巻き込まれた少女たちと出会っています。少女の紹介などを通して男子と出会い、関わることもあります。少女は性的搾取の被害にあったり、性的に商品化され消費されることが多くありますが、少年は犯罪に加担したり、搾取する側として使われたりすることがあります。

■安全を手に入れてからもトラウマや精神的な不安と付き合いながら生きていかなければならないことも多く、一時的、緊急的な支援だけではなく、医療や福祉と連携しながら、中長期的なかかわりや暮らしづくりを支える活動の必要性を感じています。しかし、不安定な状態であればあるほど、次の住まいや、連携できる支援機関や病院等が見つからないことが多く、受け皿が少ない現実に直面しています。

少女たちと共に

少女たちはいくつかの問題を複合的に抱えています。
「あなたはどうしたい？」と問われても、それがわからない状態にあることも多いです。
暴力や支配の関係性の中にいたり、「今日をどう生きるか」に精一杯な状況では、
これからのことを考える余裕もありません。見返りを求められることなく、
安全に過ごせる場所で、落ち着いて考えられる時間や環境があることや、
一緒に状況を整理する人との信頼関係があることで、これからのことを考えることができます。
私たちは、食卓を囲む時間や体験を共有し、何気ない日常を積み重ねることで互いを知り、
困った時に思い浮かぶ顔になれる関係を築きたいと考えています。
ほとんどの場合、抱える問題はすぐに解決できることではありません。
だからこそ、長い目で付き合い、ともに喜びや苦しみを分かち合い、泣き、笑い、怒り、
共に歩める伴走者でありたいと活動しています。

相談を受けた少女への対応：22,853回

■対応手段

- ・LINE ―― 18,232件
- ・メール ―― 1,819件
- ・面談 ―― 1,622回
- ・電話 ―― 394件
- ・SNS ―― 80件
- ・その他 ―― 45件

■同行支援：102件

- ・役所 ―― 32件
- ・病院 ―― 23件
- ・児童相談所 ―― 18件
- ・職場 ―― 4件
- ・弁護士相談 ―― 3件
- ・警察 ―― 3件
- ・不動産 ―― 3件
- ・学習支援団体 ―― 3件
- ・学校 ―― 1件
- ・ハローワーク ―― 1件
- ・その他支援団体 ―― 5件
- ・その他 ―― 6件

（引っ越し手伝い・荷物引き取り4件、試験同行2件）

■他機関連携：559件

■公的機関 ―― 290件
- ・役所 ―― 125件
- ・児童相談所 ―― 115件
- ・学校 ―― 18件
- ・警察 ―― 14件
- ・婦人相談所 ―― 12件
- ・保護観察所 ―― 5件
- ・婦人保護施設 ―― 1件

■民間団体等 ―― 269件
- ・子ども支援団体 ―― 28件
- ・弁護士 ―― 29件
- ・病院 ―― 13件
- ・子どもシェルター ―― 10件
- ・女性シェルター ―― 5件
- ・学習支援団体 ―― 5件
- ・宿泊提供施設 ―― 4件
- ・性暴力被害者支援団体 1件
- ・企業 ―― 1件
- ・その他支援団体 ―― 49件

（外国人・若年女性・生活困窮者支援団体、福祉施設など）

- ・その他 ―― 124件

（職場、学校教員、議員、民間奨学金給付団体、地域支援者など）

同行支援から見えてきたこと

■必要に応じて役所や児童相談所、病院、警察等への同行支援を行っていますが、特に、性搾取の被害にあったり、家出を繰り返していた少女たちが公的支援を受けることに高いハードルを感じています。彼女たちは、そうせざるを得ない状況を生き延びてきたと私たちは考えていますが、「非行少女」として取り締まりの対象となったり、問題行動があるからと支援機関での受け入れを拒まれてしまうことがあります。

■性虐待から逃れ、地方からやってきた女の子と警察に相談に行ったら「事件が起きた地元に今すぐ自費で帰って、そちらで被害届を出すように」と言われたり、ホームレス状態で性売買に関わり生き延びていた女の子が生活保護の申請をした際に役所から「うちでは現在地保護はやっていない」などと違法な説明を受けたり、虐待からの保護を求めた高校生を児童相談所が一時保護所に入れ、私語禁止のルールを破ったことなどから、「生活態度が悪い」と罰として体育館を100周させたこともあります。彼女たちに必要なのは、指導や管理ではなく、安心して過ごすことのできる場所や、信頼できる大人との関係性、医療や教育、専門的なケアなどです。教育や福祉に関わる仕事に就く人の中にも、まだ理解者は少なく、少女たちの背景に目を向けられる大人を増やしたいと考えています。

■相談者の状況によって、一時的な対応でいったん困難が和らぐこともあれば、中長期的な関わりが必要な場合もあります。頼れる家族がいなかったり、親族から身を隠して生活しなければならない状況にあったりする場合では、シェルターを出た後も、家探しから、大家への挨拶、住所変更手続きの手伝い、トラブル対応、病気の時の看病、洗濯や掃除、食品の保存方法、服薬管理や貯金、進学や就労、子育てに関してなど、生活全般を見守っています。

アウトリーチ事業 TsubomiCafe

開催数 33 回

利用者数 819 名

声掛け人数 3,082 名

移動バスによる10代女性無料の夜カフェ。渋谷・新宿で定期的に開催しています。夜の街を巡回し、少女たちに声をかけ、繋がっています。緊急事態宣言下でも利用者は増え続け、1晩45名以上が利用するようになりました。コロナ禍で「お菓子よりも、お米が欲しい」「コスメよりも、下着や靴下が欲しい」など、生きていくために必要な基本的な食品や生活用品を希望する人が多くなっています。

夜の繁華街で出会い、声をかけ、つながる

週に一回、夜の渋谷と新宿・歌舞伎町で無料のバスカフェを開催しています。ピンクのバスとテントが目印のこのカフェでは、食事や飲み物、Wi-Fiや充電が無料。バスの中では、生活に必要な物品や衣類、コスメやコンドームなどを提供しています。

夜の街で少女たちを探し、声をかけるのは、性搾取を目的とした人ばかりです。渋谷や新宿などの繁華街では、毎晩100人ほどのスカウトが街に立ち、少女たちに「どうしたの?」「仕事探してない?」と声をかけています。彼らは食事や宿泊場所を提供し、「衣食住と関係性」を与えるようにして近づきます。それは決して「セーフティネット」ではなく、商品として扱ったり、性的に搾取したりするための手段です。困っている少女たちが支援につながる前に、危険に取り込まれています。

そこで、私たちは10代の女性たちに声をかけ、つながるアウトリーチ活動を行っています。Colaboのシェルターで暮らしたり、バスカフェを利用したりした10代を中心とするメンバーが「声掛けチーム」としてアウトリーチを担い、

声掛けチームによるアウトリーチの様子

「少し前の自分たちと同じような状況にいる子達に、Colaboに繋がってほしい」「変な男について行かなくても、力になってくれるところがあることを知ってほしい」と活動しています。

公的支援に繋がらない少女の中には、自分の困りごとに気づいていなかったり、あきらめ感が強かったり、自暴自棄になったりしている人が少なくありません。「大人に諦められた」と感じる経験をしていたり、自己責任論の中で「自分が悪い」と思い込み、声を上げられずにいる人もいます。「相談」や「支援」という言葉や行為に抵抗感を持つ人も少なくありません。

そのため、TsubomiCafeでは「相談」や「支援」を目的としない場づくりをしています。少女たちに利用してもらいやすいように、大人が「してあげる」場所ではなく、少女たち自身の場所として、気軽に立ち寄り、セルフサービスで、自由に過ごせる雰囲気を大切にしています。

この活動は、韓国の民間団体の実践を参考にし、2018年10月〜2021年3月までに83回開催。7,861名に声掛け、1,624名が利用しています。

食事・物品提供

一緒に料理したり、食卓を囲んだりする時間を大切にしています。お腹を満たすだけでなく、自分の状況を整理したり、出会いや関係性づくりの場にもなっています。コロナ禍でも感染防止対策をしながら、「食べること」を大切にしてきました。

食事提供 1,768 食

物品提供 1,642 件

「難民高校生」 808 冊

出会った中高生や、学校や少年院で講演を聞いてくれた少女たちに仁藤の著書を贈っています。

応援者の方からいただいた衣類、文具、生理用品、生活用品などを少女たちに贈っています。最近、生理用品を買えない女性たちがいることが日本でも認識されはじめていますが、Colaboの活動でも、一番多くもらわれていくのは、生理用品です。

「一緒にご飯を食べよう」その一言から始まります。

困っている人の一番の困りごとは「助けて」と言えないことです。非行や家出をくりかえしていたり、困難を抱えたりしている少女たちの中に、「自分の問題なんだから、自分でなんとかしなきゃ」「周りを巻き込みたくない」と思っている人は少なくありません。その結果、ひとりではどうにもならない事態に発展しているケースもあります。

私たちは、少女たちにまずは「一緒にご飯を食べよう」「今度ご飯食べにおいでよ」と声をかけています。共に料理をし、食卓を囲み、笑いあい、互いの話をし、関係性をつくりたいと考えています。

「鍋など大勢で食べる料理を食べたことがない」「誰かが料理している所を見たことがない」という人もいます。ある時「調理されていない野菜や生肉を見たのは数年ぶり」と高校生が言いました。彼女は、妹たちと子どもだけで生活していて、家には包丁や食器もないことがわかりました。「家に食べ物が何もない」と連絡があり、食料を届けることや、児童養護施設を退所した人、家族が頼れない状況にあるなどする全国各地の少女たちへの食品や生活用品の提供も行っています。Colaboに来ると、ご飯やおかずが持ち帰れるようになっていて、翌日の食事や冷凍保存用として、家族や恋人に持ち帰る人もいます。

食事の場は「相談」のハードルを下げることにもつながります。困ったときに「相談したいです」と申し出ることは、誰にとっても簡単ではないでしょう。そんなとき、女の子たちは「そろそろご飯したいです」と連絡をくれたり、こちらから誘ったりしています。

「大人はわかってくれない」という言葉の裏には、「理解しようとしてくれる大人がいたら」という想いが込められています。

私たちは食卓を囲むことを通して、困ったときに、できれば事態が深刻になる前に相談してもらえる関係性をつくり、彼女たちがいつでも戻ってこられる「ホーム」の１つとなれればと考えています。

緊急時の保護・宿泊支援

安心して過ごせる場所がない少女が一時的に過ごすことのできる場所として運営しています。2020年度は、感染防止対策のため、ホテルでの宿泊支援を強化しました。コロナ禍で状況が深刻化しているため、20代の方にも積極的に声をかけ、宿泊支援を行いました。

日中利用	宿泊	利用者/宿泊数	利用者
25/747 名 件	15/30 名 泊	1/40 名 泊	96/770 名 泊
一時シェルター	一時シェルター	中長期シェルター（一時保護利用）	ホテル等

体を休め、落ち着いて考えられる場所を

安心して眠れる場所がないとき、困るのは、泊まれるところがないこと。「家にいられないとき、声をかけてくるのは体目的の男の人だけだった。そういう人しか自分に関心を持たないと思っていたし、頼れるのはそういう人だけだった」とある中学生が言いました。2011年の団体設立時から、行き場を失った少年少女たちを代表仁藤の自宅に泊めていましたが、少女たちが気軽に立ち寄れて、自分たちで自由に過ごせる場所を作ろうと寄付を募り、2015年夏にシェルターを開設することができました。

「今の状況を変えたい」と思っている人のほか、公的な保護につながることを嫌がりながらも「今日は安心して過ごせる場所がない」という人や、家出し見知らぬ人の家を転々とする生活を続けながらも「ちょっと休みたい」という人も使える場所。

虐待や性暴力被害等からの緊急的な保護だけでなく、「今日は母親の彼氏が来るから家にいられない」「自宅の電気やガスが止められている間だけ泊めてほしい」「試験期間だけ泊まって朝起こしてほしい」「家ではゆっくり眠れないから仮眠したい」などの利用もOKとして

います。宿泊以外にも、日中のんびりするのに使ったり、パソコンや宿題をしにきたり、キッチンやお風呂や洗濯機の利用も自由にできるようになっています。

必要に応じて、弁護士などの専門家と連携し、相談者が安心・安全な場所で生活できるように一緒に考えます。これまで利用した人の中には、里親のもとで生活をはじめたり、児童福祉施設に入所したり、一人暮らしを始めるなどしている人がいます。しかし、現状の公的制度の中では安定した生活を手に入れられずにいる人も多く、2016年度から、中長期シェルターとして、10代後半～20代前半の女性のためのシェアハウスを始めました。

生活支援

■シェアハウス（中長期シェルター）

入居者 19 名

住まいの提供や、生活支援を行っています。緊急事態宣言下では、虐待から逃れるために16、7歳の頃に家を出て、ネットカフェやホテル、知らない人の家、性搾取の業者の用意する寮などを転々としながら1年以上生活していた少女たちとも出会い、住まいを提供することができました。

中長期シェルターを「10代後半～20代前半の女性を支えるためのシェアハウス」として５物件15部屋運営しています。各家には、鍵付きの個室が３部屋とリビングやキッチン、風呂、トイレなどがあり、初期費用なしで入居でき、はじめの３か月は家賃無料（それ以降は月額利用料３万円～、状況に応じて相談）。家具家電、Wi-Fiあり、お米食べ放題。

入居者の主体性を尊重し、ルールは毎月のミーティングで一緒に決め、食事やゴミ出しなどは自分たちで行います。Colaboは彼女たちが主体的に生活を送れるようにサポートし、今後の生活に向けた計画を一緒に立てます。入居者の発案で、Colaboにお金を預け、それぞれの目標金額に合わせて貯金ができる仕組みもできました。

ネットカフェや誰かの家を転々とする生活では、持てない荷物や衣類は季節ごと、移動するごとに捨ててきたため、出会った頃は、カバンやぼろぼろのキャリーケース１つでやってくる少女たち。睡眠もほとんどとれず、緊張や不安の中に常にいる生活を送ってきたため、鍵付きの個室に感動したり「本当にいいの？」と言ったりすることもあります。まずは自分の部屋で休んで、一つひとつ暮らしを作ってもらいたいと考えています。生活が安定することで、過去の生活や被害について振り返ったり向き合う時間ができて、しんどい時期を過ごすこともよくあります。ここで暮らす間に、自身のケアをしたり、学校に通ったり、仕事をしてお金を貯めたりし、一人暮らしなど、それぞれの描く次の生活を目指します。

シェアハウスミーティングの様子

■生活支援

406 件

- 手続きサポート ── 84件
- 一緒に食事作り ── 64件
- 掃除サポート ── 86件
- 学習支援 ── 36件
- 生活環境整備 ── 23件
- 金銭管理サポート 22件
- 家庭訪問 ── 80件
- 緊急対応 ── 11件

高卒認定学習支援

アパート入居支援

シェアハウスで暮らしているメンバーや、卒業メンバーの生活を支えています。シェアハウスを出て生活を始めてからも、いつでも戻って来たり、顔を出したりできる実家のような場所でありたいと思っています。

■就労支援

92
件

・手続きサポート ―― 27件
・情報提供 ―――― 25件
・書類作成 ―――― 20件
・面接練習 ―――― 12件
・仕事紹介 ―――― 7件
・就労体験 ―――― 19件

就労を目指す少女たちに、資格取得や求人に関する情報提供や、履歴書の書き方や面接の練習などを行っています。Colaboと繋がりのある企業や商店等と連携し、アルバイトとして就労体験の機会をつくり、実際に就職に至ったケースもありました。今後も協力者や協力企業を増やしていきたいと考えています。

コロナ禍の一年

ー「ステイホーム」できない少女たち

非常時には女性や子どもへの暴力が深刻化しますが、学校休校要請のあった2020年3月から、Colaboへの相談も急増しました。路上や知らない人の家を転々とするなど、感染リスクの高い生活をせざるを得ない少女たちと関わる中で、シェルターでコロナの感染者が出たこともありました。同居の女の子たちが濃厚接触者となり、精神的にもつらい二週間の自宅隔離生活を支え、消毒なども自分たちで行わなければなりませんでした。民間ホテルの協力により、風呂やトイレも個別に使用できるホテルをシェルターとして活用し、90名以上の方に、750泊以上の緊急宿泊支援を行うことができました。

ー「世帯主へ」とされた特別給付金、虐待から逃れている10代も受け取れるように

活動を知り、10万円の特別定額給付金を寄付してくださる方も多くいたため、2020年度は過去最大の寄付金が集まり、私たちは活動に専念することができました。しかし、政府は「世帯ごと、世帯主への給付」としたため、それでは虐待から逃れている子どもたちが受け取れないと私たちは訴え、国会でも取り上げられました。政府はその後、DV被害者に加え、「親族からの暴力などを理由に避難し、自宅には帰れない事情を抱えているもの」も自身で受け取ることができるとの通知を全国の自治体に出し、ホテルなどへ一時的に避難している方でも受け取れると総務大臣が答弁しました。

しかし、複数の自治体で、少女たちの申請が拒否される事態が多発。「自分でもらうと親が怒ると思うよ」「居場所を探されたらどうするの？」と受け付けてもらえなかったり、「国から特別に認められたDVじゃない限りは、原則世帯主に給付することになる」「親が先にもらっていたら受け取れない」と誤った説明をされたり、虐待の事実を支援機関が記す「確認書」の発行を嫌がった児童相談所が「父親に確認する」とか「どうしても自分で受け取りたいのであれば弁護士に相談して」と対応したこともありました。

「個人」ではなく「世帯主」へ給付するという考え方に根深い問題があり、普段から弱い立場に置かれる女性や子どもの人権が守られてこなかったことを改めて実感しました。

ー虐待から逃れている場合、学生自身の経済状況で、給付型奨学金を利用できるように

Colaboとつながる少女たちのほとんどは、小中学校もあまり行けておらず、中卒か高校中退です。2020年度、Colaboから初めて大学や専門学校に通うメンバーが出たことで、奨学金を申請する際に、18歳までに児童福祉施設で保護されていない人は、保護者がいるとみなされ、親との同居や支援がない状況でも「独立生計者」として認められていなかったことがわかりました。

Colaboがこの問題を提起し、国会で取り上げられたことから、今虐待から逃れて自身で生計をたてている人は、「独立生計者」として認められ、給付型の奨学金や無利子の奨学金を申請できることになりました。

しかし、これについても、大学が「本当に暴力を受けているのかわからない」「証拠がない」と、諦めさせようとするケースが複数あります。文科省の説明では、大学が本人に聞き取りをするなどし、虐待があったことを確認すれば、第三者からの「事情書」は必要ありません。大学には学生を守ることを第一に考え、事情書を必要とする場合でも学内のカウンセラーなどへの相談でOKとするなど、被害を受けた学生への負担を軽減するべきです。

やっとの思いで親から離れて、住所を隠す手続きもして生活を始めた学生が、そのことを何度も大学に伝えていたのに、「奨学金の書類は保護者宛に送るルールだ」と言われたり、新しい住所の入った書類を実家に送られたケースもあります。

すべての学校は、親から逃げざるを得ない学生に対して、親から問い合わせがあっても居場所や住まいを教えないなど、被害者を守るためのルールを整備するべきです。Colaboで暮らしながら、進学したメンバーがいたことで、この問題に直面しました。悔し涙を流しながらも、諦めずに声を上げたことで、道を切り開いてくれた彼女に感謝します。

サポートグループ「Tsubomi」

Tsubomiは、Colaboとつながった少女たちによるグループです。それぞれが自分の状況に向き合いながら、ともに活動し、支え合いの関係も生まれています。コロナ禍では合宿の開催が難しく、女の子たちが楽しみにしていた韓国や沖縄への合宿が中止になりましたが、一棟貸しの宿で、女の子とスタッフ、スタッフの子どもも混ぜこぜのチームに分かれ、初の大運動会を開催しました。

参加者 16名
延べ278名

活動件数 112回

つながり、主体となって活動する

大運動会

Colaboとつながる少女たちがつながり、共に過ごし、主体となって活動する場。同じような経験をし、悩んできた人たちと出会うことで自分の状況を整理し、向き合ったり、回復に向けたきっかけにもなっています。合宿や夏祭りなどの体験活動を通して社会問題について学んだり、誕生日や成人祝い、卒業や就職などのお祝いを一緒にしたり、クリスマスや年越しを一緒に過ごしたりしています。児童買春の実態を伝える「私たちは『買われた』展」など、経験や想いを伝える活動も行っています。2019年度からは性暴力被害の実態を訴え、問題を言葉にするYoutubeの番組『シリーズ キモいおじさん』もスタートしました。

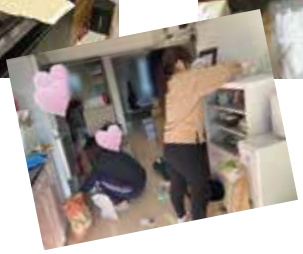
成人祝い

■アウトリーチ活動：Tsubomi Cafe運営準備、夜の街での声掛け ■伝える活動：企画展『私たちは買われた展』証言映像作成、取材対応、のりこえねっと収録 ■活動補助：シェルター増設準備、寄付物品仕分け・整理、事務作業 ■季節のイベント：誕生日会、成人祝い、クリスマス会 ■勉強会：性売買経験当事者との反性搾取に関する勉強・交流会、舞台鑑賞（青年劇場『あの夏の絵』） ■合宿：山中湖合宿（Colabo初の大運動会、ぶどう狩り、花火）、宮城合宿（東日本大震災を学ぶ旅、温泉）、年越し合宿

夏合宿

活動報告書発送作業

アウトリーチグッズ作成


シェアハウス
5物件合同大掃除

Kさん（16歳）

Colaboのような場所が当たり前にある社会に

私は小さい頃から殴られるなどの暴力を受けたり、暴言を吐かれたりする環境で育ちました。怒られると食事を与えられず一日中外に立たされることもありました。テーブルの足は折れ、ドアには穴があいていました。歳が上がるにつれて、親の管理が厳しくなっていき、高校生になっても、現在地は常にGPSで監視され、スマホの中身は全て見られていました。門限は6時で秒単位での遅れも許されず、友達と遊ぶことまで制限されるようになっていました。

小さい頃からずっとそんな環境に置かれていたので、中学に入るまで自分の家庭環境が異常であることに気づかず生活していました。友達に家の話をしたときに、「お前の親はやばい」とか「暴力なんて振るわれたことない」と言われることが多くなり、親に対する嫌悪感や違和感を強く感じるようになりました。

高校に入り児童相談所に相談し、保護されましたが家に帰ることになり、結局なにも変わりませんでした。私は児童相談所にその後も3回保護を求めましたが、「親が大丈夫って言ってるから」と言われて家に帰されました。私は、誰を頼ればいいのかわからなくなっていました。助けを求めても聞き入れてくれる人がいないのならば、自分でどうにかするしかない、そう思いました。

そして家にいることに限界を感じた私は、家出をして、Twitterで「ゲームとかして仲良くなりたい、泊まりに来ない？」と声をかけてくれた男性のところへ行きました。そこで私は首を絞められレイプされ、あまりの恐怖に抵抗することができず同意のない性行為をさせられました。きっとこのまま殺される、もう死ぬのだ、と思いました。もう2度とここから出ることはできないのではないかとも思いました。恐怖と同時に、なぜ自分がこんな目に遭わなければならなかったのかわからず怒りも感じました。

私と同じように、家出をして性被害にあった女の子は少なからずいます。家にいるのが辛いというSOSが届かない、私はそれ自体が問題だと思います。Colaboのような場所が増え、誰もが気軽に相談できるような、そんな世の中になってほしいと思います。

企画展「私たちは『買われた』展」

2016年8月～

開催数	開催日数	来場者数
22 箇所	84 日間	11,626 名

各地で企画展を開催したい団体を募集中!
パネル貸出しについてはお問合せください

中高生世代を中心とする当事者がつながり、声を上げることで、自分たちの権利を回復し、児童買春の現実を伝え、「売春」のイメージを変えたい。これまで表に出ることができなかった「買われた」私たちの声を伝え、今も苦しんでいる少女たちや、かつて似た苦しみを経験した女性たち、すべての女性に勇気を与えたいと、Colaboとつながる14～26歳まで36人のメンバーが立ち上がり、写真や体験談、手記、日記「大人に伝えたいこと」をテーマにした作品を作成しました。2020年度は新型コロナウィルスの影響により、企画展の開催は中止や延期となりましたが、10代のメンバーの発案で「証言映像」の作成にも取り組みました。

売春している中高生について、
どんなイメージを持っていますか?

ある大学の授業で学生たちに投げかけると、こんな言葉が返ってきた。

—快楽のため
—愛情を求めて
—その場限りの考えで
—遊ぶお金がほしいから
—優越感に浸るため
—自分も街で買春をもちかけられたことがあるけど、断った。だから、やる人はやりたくてやっているんだと思う
—正直、そんな人と関わりたくないと思う
—どうしてそこまでやれるのか、理解できない

当事者のAは言った。

「そんなもんだよ。世の中の理解なんて。もう、そんなことでは傷つけなくなった。」

後日、このことをColaboにつながるメンバーで共有し「イメージを変えたい!」と、この企画に至りました。

「行くところがないとき、声をかけてくるのは男の人だけだった。他にご飯を食べさせてくれる人も、泊めてくれる人もいなかった」　（16歳・高校生）

「親も頼れる大人もいない、ひとりで生きていくしかないと思っていた。買った大人への怒りとかいうよりも、買われる前の背景があることを知ってほしい。家族や学校、施設で虐待されたり、ひどいことを言われたりしたことが繋がっている。そうでもしないと、生きられなかった。」　（20歳・高校生）

日本では児童買春について「援助交際」などの言葉で、少女たちが気軽に足を踏み入れるものというイメージで語られてきましたが、そこにあるのは「援助」や「交際」と言えるようなものではなく、「支配」と「暴力」の関係性です。企画展を通して、金銭を介することで性暴力を正当化しようとしたり、買う側の気軽さには目を向けない大人がたくさんいることにも気づきました。

一方、企画展を通して、「私も同じ」と性搾取の被害に遭っていることを相談してくれる少女たちとの出会いが続いています。声を上げた少女たちの体験に共感し、「これまで、苦しんでいるのは自分だけだと思っていた。自分を責めていた。変わることも、抜け出すこともできないと思った」と、14歳の少女が言いました。来場者アンケートでも、「買われた」経験をもつ10～60代の女性たちからの感想を300通ほどいただきました。かき消されてきた声があることを改めて感じています。

「Colaboには、同じような経験をしたお姉さんがたくさんいて、昔同じような経験をした女の人から支援が届いているのを知って、自分だけじゃなかったって安心した。考えてもらうきっかけになったらいいし、何か感じてもらえるだけでいい。」（15歳・中学生）

私たちが、いま、ここに生きていることを知ってほしい。

啓発事業

「少女たちの置かれた現状」「性的搾取の問題について」「女性の人権」「関係性の貧困」「SNSの危険」など、10代を取り巻くさまざまな問題、実態について講演やワークショップを行います。夜の街歩きツアーでも、少女たちを狙う危険や現状を伝えています。

講演会 4 回

参加者 453 名

「少女たちの置かれた現状」「性搾取の実態、加害者の手口」「児童福祉の現状」「女性の人権」など、10代を取り巻くさまざまな問題、実態について講演やワークショップを行います。夜の街歩きツアーでは、少女たちを狙う加害者たちの実態や現状を伝え、大人の責任を共に考えます。

講演依頼を受け付けております。HPからお問合せください。

中高生向け

家族や友人との関係、居場所や進路について、性のこと…色々なことに悩む生徒たちへ、「虐待や性暴力被害」「対等な関係性について」「女性の人権や男女差別について」「貧困問題について」など、幅広くお話ししています。困ったときに自分を責めたり、あきらめたりしなくて良いように、また、困っている友達に気づいて、手を差し伸べたり、暴力や差別を目にしたときに声をあげられる人になるために、どうしたらいいのか？相手を尊重するとはどういうことか？一緒に考えます。

大人向け

今、日本の少女たちはどのような状況に置かれているのか、活動の中から見える実態をお話しします。虐待や性暴力被害を生み出す社会的な構造や加害者の存在に目を向け、大人たちの責任を問い、困っている子どもたちがどんな想いでいるのか、背景には何があるのか、私たちには何ができるのか、一緒に考えます。

2020年度 講演実績

■民間団体　福岡県人権啓発情報センター / 中央共同募金会　■政党　JCP with you 東京 / 立憲民主党「困難を抱える女性支援法検討WT」

2021年「国際女性デー | HAPPY WOMAN AWARD 2021 for SDGs」を受賞しました。

受賞コメント：今回の受賞は、「困難な状況に置かれた少女たちの存在に目を向けようとしている大人がいるよ」というメッセージでもあると受け止めています。日本では男女格差が激しく、コロナ禍で女性の置かれた現状は本当に深刻で、Colaboへの相談も増え続けています。まさに今日も、虐待で家に帰れないという高校生からの相談が届く中でここに立っています。現状を変えるために共に歩んでいただけたらと思います。

『難民高校生』を贈ろうプロジェクト 663冊を贈りました。

代表の仁藤が「大人になる前に、中高時代の生活や気持ちを伝えたい」と学生時代にまとめた2013年に英治出版から出版され、2016年に筑摩書房から文庫になりました。当時の経験や想いを原点に、Colaboは活動を続けてきました。学校や少年院など、10代向けの講演の機会も大切にしてきましたが、新型コロナの影響で直接伝える機会がつくれない今、一人でも多くの少女たちにメッセージを届けるためにスタートしました。

夜の街歩きスタディーツアー

夜の繁華街を歩き、身近にありながら大人たちの目には見えにくい現状を解説します。目で見て肌で感じていただき、現状を知り、「気づける大人」を増やしていくための活動として位置づけています。普段の生活の中では気づきにくい、少女を取り巻く現状を知っていただく機会です。ぜひ、ご参加ください。個人での参加のほか、団体の研修としてもお受けしています。8名以上での申し込みで、お好きな日程で調整可能です。

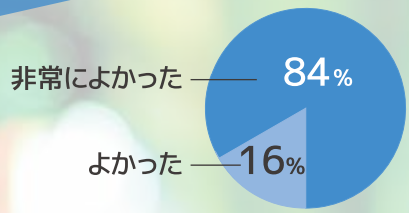
■参加者：教員、保護者、児童福祉、医療、警察、行政関係者、弁護士、議員など

参加者募集中！

参加希望の方は、HPよりお問合せください。

ツアー参加者の満足度

2019年度
アンケート回答者36名



・少女を取り巻く危険や実態を知ることができた ―100%
・これまで気づくことのなかった現状を知れた ――100%
・青少年を見る目や、若者に対する見方が変わった ―78%

参加者の声

今まで、自分が見ようとしないことで、現実を受け止めていなかったと痛感しました。

意識して歩かないとわからない現状を知ることができました。関心を持たないことによって、近くにあるのに気づかずにいた現状に、おそろしい気持ちになりました。自分ができることを考え、行動しようと思いました。要所要所で説明をしてくれたので、より一層わかりやすくあっという間に時間が経ちました。現実として受け止めることができました。（40代女性 高校教員）

若い女性たちを大人たちがいかに食い物にしているか、まざまざと感じました。

この社会を作っている大人の責任について考えさせられました。また、支援するには女の子たちが何を求めているのか、どんなことを感じているのか知ることが大事であることがよくわかりました。私は行政の立場で仕事をしているので、弱い立場にある人たちを踏みつけるのでなく、尊重する社会を作っていけるよう、できることをしていきたい、私たちが変えていかなければと思いました。向き合う機会になりました。（40代女性 公務員）

私が普段仕事にしている福祉や教育は、届けたい人にこそ届いていないという実態がよくわかりました。

これまで頭で理解していたつもりでいましたが、実際に目の当たりにすることで、問題の重大さを実感しました。参加して本当によかったです。また、仕事のみでなく自分の日常の行動もこの問題と地続きであることがわかりました。これまで女の子たちが商品化されている様子を見て、違和感はなんとなく感じていましたが、それを言葉にすることや周りの人と話すことはありませんでした。ツアー以降、周りの人と話すようになりました。自分にできる支援を具体的に検討していきます。（30代女性 会社員）

アウトリーチ支援者養成講座

街歩きスタディーツアーの参加者のみにご案内しています。座学やワークショップ、「家出体験」などを通して、中高生達が夜の街に出る背景を想像し、気持ちに寄り添えるようになることを目的とした研修です。一人ではなかなかできない家出体験や研修を通して、どんな声かけや支援が必要か、自分の役割・できることは何か、一緒に考えます。研修を修了された方を対象に、アウトリーチ活動へのボランティア募集情報をご案内します。開催情報はお問い合わせください。

メディア掲載（一部）

テレビ・ラジオ

2020年

4月　TBS・サンデーモーニング4月5日
J-WAVE・JAM THE WORLD「新型コロナウイルスに関する支援活動について」
NHK・首都圏情報ネタドリ！「感染拡大 居場所を失う少女たち」

5月　FMヨコハマ・Lovely Day「「10代女子」の支援について」

10月　TBS・サンデーモーニング10月11日「コロナ禍で深刻化する虐待」黒板解説

11月　TBS・サンデーモーニング11月15日

12月　TBS・サンデーモーニング12月13日
テレビ埼玉・NewsSpecial2020「コロナ禍で増加する少女への性犯罪」

2021年

1月　TBS・サンデーモーニング1月17日
J-WAVE・JK RADIO TOKYO UNITED「シェルターの運営を続ける」

2月　TBS・サンデーモーニング2月14日
NHK・おはよう日本「コロナ禍で安全にステイホームできない女性たち」
NHK・おはよう日本「わきまえるって何？」
TBS・NEWS23「コロナ禍でSOS急増 夜の街をさまよう少女たち」

こちらから動画をご覧いただけます

新聞

2020年

4月　中日新聞「居場所ない少女にベッドを 外出自粛で虐待リスク高く」
読売新聞夕刊「DV被害女性、行き場なく…ネットカフェ休業で」
東京新聞「家いられない少女救え」
朝日新聞「（新型コロナ）追い込まれた人 支援したい」
共同通信「「馳議員からセクハラ」少女訴え　視察受けた団体抗議」
朝日新聞「大勢 大声 馳議員ら視察に批判　女性支援団体「許可なく写真投稿された」」
東京新聞「馳氏セクハラ　団体側「直接謝罪なく不誠実」首相、国会で陳謝」

5月　日本経済新聞「若い女性に駆け込み先」
朝日新聞「性被害 SNS「友達」から」
毎日新聞「窓をあけて：その名を愛せる日は」
朝日新聞「女の子のSOS 支援につなぐ」

6月　都政新報「コロナ禍で深刻化する虐待、性被害」

7月　しんぶん赤旗「コロナ禍 少女からのSOS急増」
「講座で性的搾取告発」

11月　東京新聞「未成年誘拐県内で急増」

12月　朝日新聞「子どもへの性暴力　第3部消費する社会 1」
しんぶん赤旗「シリーズ 性売買を考える」

2021年

2月　共同通信社「#わきまえない女」拡散　（琉球新報 京都新聞、長崎新聞など）

3月　しんぶん赤旗「ジェンダー平等後進国から発信 私たちは黙らない」特集
読売新聞「「生理の貧困」コロナで深刻化」

書籍

2020年

9月　「性暴力被害を聴く」（金富子/小野沢あかね編・岩波書店）

2021年

2月　「路上のX」（桐野夏生著・朝日文庫）文庫解説

機関誌

2020年

10月　日本標準教育研究所『教師のチカラ』季刊43号「行き場のない少女たちに 安心していられる場所を」

11月　神奈川県高等学校教育会館教育研究所『ねざす』No.66「先生への教科書」

12月　労働教育センター『子どもと健康』No.112「コロナ禍での子どもたちは、今」
全国障害者問題研究会『みんなのねがい』No.657－No.661連載

2021年

3月　全国保険医新聞「連載ステイホームできない少女たち」

WEB

2020年

4月　The Japan Times「Curbs to stem COVID-19 in Japan may fuel domestic violence and abuse」
FRaU「 コロナ自粛で加速するDVや虐待…「家が怖い！」を救う医師たちの取り組み」
Kyodo News「Coronavirus, stay-home request hit girls with no place to go」
朝日新聞デジタル 論座「コロナ「緊急事態宣言」で、少女たちに起きていること（上）（下）」
毎日新聞「視察「許可なく撮影」「すごく偉そう」少女支援の集い、自民議員に抗議」「少女支援の団体、自民議員に抗議文　大人数視察「セクハラ、問題行為あった」」
NHK NEWS WEB「「大人数で視察 セクハラも」自民議員らに抗議文 少女支援団体」
朝日新聞デジタル「自民・馳氏がHPで謝罪 女性支援団体がセクハラを指摘」
東京新聞 TOKYO Web「馳元文科相が謝罪「大変申し訳ない」「セクハラ」　団体が抗議」
Choose Life Project「コロナ時代を生きるために」

こちらから動画をご覧いただけます

デモクラシータイムス「コロナ禍の中、居場所のない少女たちに止まり木を」

こちらから動画をご覧いただけます

4月　毎日新聞「首相、馳元文科相を厳重注意へ「傷つけ申し訳ない」　女性団体がセクハラに抗議」
産経新聞「首相「党総裁として申し訳ない」」
朝日新聞デジタル「「自民党総裁として申し訳ない」馳氏視察への抗議に首相」
NHK NEWS WEB「首相 少女支援団体視察の自民党議員らを厳重注意へ」
朝日新聞デジタル「今日倒れてしまう人が コロナ困窮、あなたも支援できる [新型コロナウイルス]」

5月　日本経済新聞　「若い女性に駆け込み先を コロナで行き場失う恐れ」
Business Insider Japan「馳氏ら自民視察の回答書「言い訳の典型」「質問に答えてない」、少女支援団体が憤り 」
のりこえねっとTube「シリーズ キモいおじさん 第２回　私が出会った自民党視察団」

5月　NHK 首都圏ナビ「感染拡大　居場所を失う少女たち 首都圏情報 ネタドリ！」
朝日新聞デジタル「コロナが奪う少女の居場所「泊めてあげる代わりに…」[新型コロナウイルス]」
東京新聞 TOKYO Web「<新型コロナ>虐待で避難、未成年の１０万円申請　一部自治体が受け付けず」
朝日新聞デジタル「ステイホームできない少女たち 給付金も受け取れず」

6月　Voice Up Japan Media「How Colabo has created a haven for girls in Tokyo」
GAZETTE DES FEMMES「À Tokyo, la détresse des mineures privées de foyer」

11月　東京新聞 TOKYO Web「「神待ち」のＳＮＳ投稿が未成年者誘拐に　新型コロナ感染拡大で女子中高生の被害が増加」

12月　The Asahi Shimbun「Young woman tries to cope after life of sexual exploitation」

2021年

1月　AERA dot. (アエラドット)「YouTuberワタナベマホト問題、女の脇が甘い？「デジタル性暴力の典型的なやり口」と被害者支援団体

2月　NHK首都圏「コロナ禍で安全にステイホームできない女性たち 仁藤夢乃さんに聞く」
NHK みんなでプラス「Vol.9　“わきまえる”の波紋」
毎日新聞「森氏発言を逆手「#わきまえない女」共感広がる」

3月　共同通信「キティ、剛力さんら表彰 SDGsの推進に貢献（共同通信）」

詳しくは下記サイトへ
ダウンロードや記事を閲覧できるものあります
https://colabo-official.net/

こちらから動画をご覧いただけます

会員・寄付・物品応援

♥ サポーター会員

1,449名(1,290万2,000円、2,150口)

♥ 資金寄付

■個人の方から 3,114名(9,170万589円)
■企業・団体から 43件(788万1,476円)
■ソフトバンクつながる募金を通しての寄付413件 (74万8,489円)
■講演会場での寄付：4会場（18万6,306円）

♥ プロジェクトへの寄付

■『難民高校生』を贈ろう 86名543冊分（108万6千円)
■シェルター増設サポーター　73名130口（130万円）
1口（54名）：小川雄基様、越智保宏様、工藤正則様、小池知子様、白濱綾子様、塩谷征子様、松岡佳那様、武内梓朗様、山崎たい子様、米山文江様、Maa_Maa様、新宿区更生保護女性会代表坂本悠紀子様、他42名様
2口（6名）、3口（7名）、4口（2名）、
5口（1名）：村上ひろみ様、10口（3名）

♥ シェルターオーナー

186名の方に312日分、936万円の運営費を支えていただきました！
■1日オーナー（133名）：朝戸理恵子様、市川朝枝様、稲塚由美子様、岩田紀子様、梅澤のり様、北田幸子様、工藤正則様、志田朋子様、島田克彦様、塚田美紀様、二木玲様、原豊文様、向井初音様、山本美波様、Sam Corn様、K・I様、K・Y様、社会福祉法人藤雪会　職員互助会こんぺいとう様、他115名様
2口（29名）：新井寿美様、荒谷創様、高田賢太郎様、三浦まり様、Yuki Lee様、N・O様、Y・K様、銀河の果てまで孝子ファン様、つるまめ様、他20名様
3口（12名）
4口（5名）：王由衣様、K．S様、他3名様
6口（1名）
10口（2名）：丹羽雅代様、他1名様
24口（1名）

♥ 物品寄付

一般寄付：718回、Amazon：581回、合計：1,299回
■物品寄付 223万1,485円分（Amazon欲しいものリストからの寄付等金額換算できるもの）
■金券 143万1,919円分（切手、商品券、Amazonギフトカードなど）

♥ 企業からの宿泊支援

2施設284泊分（122万4千円）

♥ 企業からの物品寄付

18社（813万8,233円分）

Office Kiko
株式会社I-ne
株式会社アチーブ
株式会社KGP JAPAN
株式会社 ディディエ・ジャポン
株式会社ドクターシーラボ
株式会社フラン
株式会社ラッシュジャパン
シェラトン・グランデ・トーキョーベイ・ホテル
チョコラBB
つむぎコスメ
プーマジャパン株式会社
メテオAPAC株式会社
Rethink PROJECT
ホーユー株式会社

他3社

想いのつまったご支援、ありがとうございました！

♥ 助成金で支えていただきました！

■中央共同募金会「赤い羽根福祉基金」
ー孤立困窮した青少年に対するアウトリーチ・自立支援モデルの構築

■日工組社会安全研究財団「広域安全事業助成」
ー虐待、性犯罪被害女子の保護・自立支援及びシェルター運営事業

■お金をまわそう基金
ー虐待、性犯罪被害者女子の保護シェルター及び自立支援シェアハウス運営事業

■Rethink PROJECT「SDGs 貢献プロジェクト」
ー困難を抱えた女子に対するアウトリーチ支援事業

■READY FOR／東京コミュニティー財団
「新型コロナウイルス感染症：拡大防止活動基金」
ー新型コロナウィルス流行に対する緊急措置
（一時シェルターの整備、相談体制強化）

■若草プロジェクト「若草メディカルサポート基金」

■ウィメンズアクションネットワーク「WAN基金コロナ禍対策女性連帯プロジェクト」

■愛恵福祉支援財団「新型コロナウィルス感染拡大に伴う「緊急助成」」

■中央共同募金会「居場所を失った人への緊急活動応援助成」ー虐待や性暴力被害に遭うなどした10代女性に対する緊急相談事業

居場所を失った人への
緊急活動応援助成

♥ お弁当・食品提供で支えていただきました！

セカンドハーベスト・ジャパン、
観音山フルーツガーデン、
聖イグナチオ教会、あーちのめし処

♥ 以下の物品を募っています

■商品券、カタログギフト、図書カード
■書き損じハガキ、未使用切手
■iPhone、ノートパソコン等
■衣類、制服、靴（新品のみ）
■日用品（生理用品、リップクリーム、制汗剤、メイク用品、マスクなど）
■食品、農産物：お米や果物、お肉、野菜等の定期的なご支援、歓迎です！
■Amazonほしいものリストで、必要な物品を掲載しています。

2020年度 会計報告

活動計算書

自 令和2年 4月 1日 至 令和3年 3月31日 [税込](単位:円)

【経常収益】			
【受取会費】			
サポーター会員受取会費		12,900,000	
【受取寄付金】			
受取寄付金(個人)	107,296,299		
受取寄付金(企業団体)	17,992,198	125,288,497	
【受取助成金等】			
受取助成金		24,901,470	
【事業収益】			
相談事業収益	4,318,400		
巡回事業収益	7,466,400		
基礎的支援事業収益	7,425,008		
自立支援事業収益	3,012,634		
情報提供事業収益	613,400	22,835,842	
【その他収益】			
受取 利息	677		
雑 収 益	112,713	113,390	
経常収益 計			186,039,199

【経常費用】			
【事業費】			
(人件費)			
給料 手当(事業)	12,110,508		
法定福利費(事業)	1,371,375		
通 勤 費(事業)	412,679		
人件費計	13,894,562		
(その他経費)			
売上 原価	73,880		
給 食 費	2,032,615		
衛 生 費	2,386		
教 養 費	43,938		
支 援 費	14,618,140		
業務委託費(事業)	66,000		
諸 謝 金	78,000		
印刷製本費(事業)	130,180		
会 議 費(事業)	42,125		
旅費交通費(事業)	1,651,698		
車 両 費(事業)	762,252		
通信運搬費(事業)	1,210,415		
消耗品 費(事業)	2,095,343		
消耗什器備品(事業)	1,399,001		
修繕費(事業)	38,500		
水道光熱費(事業)	962,872		
地代 家賃(事業)	3,194,930		
広告宣伝費(事業)	14,360		
接待交際費(事業)	68,022		
新聞図書費(事業)	136,894		
減価償却費(事業)	1,420,479		
保 険 料(事業)	204,690		
租税 公課(事業)	1,191,700		
支払手数料(事業)	1,763,611		
雑 費(事業)	896,900		
その他経費計	34,098,931		
事業費 計		47,993,493	
【管理費】			
(人件費)			
給料 手当	5,817,504		
法定福利費	498,322		
通 勤 費	162,551		
福利厚生費	19,320		
人件費計	6,497,697		
(その他経費)			
業務委託費	814,000		
会 議 費	40,827		
旅費交通費	44,532		
通信運搬費	656,162		
消 耗 品 費	193,905		
消耗什器備品費	368,471		
修 繕 費	154,588		
水道光熱費	120,291		
地代 家賃	2,112,060		
新聞図書費	50,000		
保 険 料	36,840		
諸 会 費	57,750		
租税 公課	7,050		
支払手数料	3,274,543		
雑 費	10,000		
その他経費計	7,941,019		
管理費 計		14,438,716	
経常費用 計			62,432,209
当期経常増減額			123,606,990

【経常外収益】	
経常外収益 計	0
【経常外費用】	
経常外費用 計	0
税引前当期正味財産増減額	123,606,990
法人税、住民税及び事業税	70,000
当期正味財産増減額	123,536,990
前期繰越正味財産額	64,533,332
次期繰越正味財産額	188,070,322

※次期繰越正味財産額の内6,000万円を「シェルター居場所増設職員雇用積立金」として積み立てました。

団体概要

名 称	一般社団法人Colabo
設 立	2011年5月 (2013年3月に法人格取得)
役 員	
代表理事	仁藤 夢乃
副代表理事	稲葉 隆久
理 事	奥田 知志 (牧師、NPO法人抱樸 理事長)
	川村 百合 (弁護士)
	齋藤 百合子 (大学教授)
	細金 和子 (婦人保護施設慈愛寮 元施設長)
監 事	中村剛 (弁護士)

ご支援のお願い

私たちの活動は、みなさまのご支援に支えられています。サポーター会員や、シェルターオーナーになって活動継続のための仲間になってください！

サポーター会員　年会費／1口:6,000円

私たちの理念・活動に共感いただいた方に、1口6千円／年からの会費で活動を支えていただいています。
会員の方々の支えがなければ、活動を継続できません。
ぜひ入会し、活動を共につくる仲間になってください！

■会員特典：活動報告会へのご招待や、街歩きツアーなどの研修割引

『難民高校生』を贈ろうプロジェクト　1口:2,000円

中高生や少年院で出会う少女たちに仁藤の本を贈っています。1口で1人の少女に届けることが出来ます。

シェルターオーナー　1口:30,000円

1口で1日運営する費用がまかなえます。365日開設を目指し、支援を募っています。

活動資金の寄付

口座振り込み、またはクレジットカードでのお支払いが可能です。

●クレジットカード・口座振込による寄付

Colaboに直接ご寄付いただけます。
活動全般を支える資金のご寄付で
応援お願いいたします！

■ゆうちょ銀行
(ゆうちょ銀行〈振替先選択で「記号番号」から振込の場合〉)
記号）10150
番号）91829801
名義）イッパンシャダンホウジンコラボ

■ゆうちょ銀行
(他金融機関・ゆうちょ銀行〈振替先選択で「店名」から振込の場合〉)
店名）〇一八（ゼロイチハチ）
店番）018
口座）普通 9182980
名義）イッパンシャダンホウジンコラボ

■三菱UFJ銀行
渋谷中央支店
口座)普通 0363448
名義）イッパンシャダンホウジンコラボ

●つながる募金

↑ Softbankのスマホからご利用料金とまとめて寄

つながる募金

ソフトバンクのスマホやPCから、携帯電話の利用料金の支払いと一緒に継続的な寄付ができます。ソフトバンクスマホをご利用の方限定でTポイントでの寄付も可能です。

← どなたでも可能
（クレジットカードで寄付）

食品・物品の寄付

随時必要な物をHPに掲載しています。
送付先はお問い合わせください。

ほしいものリストからの寄付

サイトに必要としている物品を掲載しています。
Amazonからの購入でColaboに届く仕組みです。
http://goo.gl/24g9zt

Colaboスタッフ活動スローガン「一人ひとりが、活動家」

■私たちは、創設時から、少女たちを「支援対象」としてではなく、共に声を上げ、社会をつくる主体であり、仲間と考えてきました。支援する／される関係ではなく、共にあることを大切にし、一人ひとりの主体性を尊重しながら、共に歩き、共に道をつくってきました。　■Colaboの活動は、当事者運動です。Colaboとつながる少女たちや、すべてのスタッフ、ボランティア、寄付者の方々が、社会を変える当事者だと考えています。　■支援に関わるスタッフも、事務局スタッフも一丸となり、一人ひとりが社会を変える当事者として、これからも活動していきます！

応援メッセージ

私たちも
応援しています！

小島 慶子　エッセイスト

「外をふらついているのは素行の悪い子どもなのだから犯罪に巻き込まれても自業自得。性的搾取や性暴力の被害にあっても自己責任。そもそも本人が遊ぶお金欲しさに望んでやっていることなのでは？」こんな意見を、あなたはどう思いますか？街にしか居場所のない子どもたちがいます。経済的な事情や、家庭でのネグレクトや暴力など、様々な理由で帰る場所のない子どもたちがいます。身を守るための知識がなく、頼れる人もいない子どもたちを利用したり、買ったりする大人たちが後を絶ちません。そんな子どもたちが頼れる場所を増やそうという仁藤さんの取り組みに賛同します。

稲葉　剛　立教大学大学院特任准教授／一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事

相談窓口を作って、待っていても、支援を必要としている人はなかなか来てくれない。これは経済的な貧困や社会的な孤立など、様々な困難を抱えた人たちを支える活動の中で、幾度となく言われてきたことです。なぜなら、「誰かに相談をして、助けてもらえた」という経験を持ったことのない人は、相談をすることによって自分の状況が良くなると思えず、窓口まで足が向かないからです。では、どうすればいいのか？待ちの姿勢をやめて、彼ら彼女らのもとに出かけていくこと。それがアウトリーチと呼ばれる活動です。居場所がなく、夜の街をさまよう子どもがいれば、自らそこに出かけていく。仁藤夢乃さんたちはこれまで地道なアウトリーチを続けてきました。2019年春、Colaboとも協働し「東京アンブレラ基金」を立ち上げました。都内のさまざまな団体が「今夜、行き場がない」人に「緊急宿泊支援」を実施した際、費用の一部を補助する仕組みです。Colaboの活動を応援し、さらに連携を進めていきたいと考えています。

麻木久仁子　タレント・国際薬膳師

貧困、虐待、暴力、人間関係など様々な理由で安心安全な居場所を失い、社会からその存在を切り離され、街を彷徨うことを余儀なくされている少女たちは、心も体も傷ついています。自分が受けた傷や被害の責任が自分にあるかのように感じることも多いそうです。こうした少女たちの自尊心は、深く深く切り裂かれてしまうことでしょう。仁藤夢乃さん率いるColaboは少女たちの隣にいて、同じ時代に同じ街で生きる「仲間」として手を差し伸べています。かわいそうだから助けるというよりも、仲間だから支えるということ。現実的な自立の手立てを提案すると同時に、ゆえなく傷つけられた自尊心を回復するということ。仁藤さんの揺るぎない信念を感じます。そんなColaboに共感し、心から応援します。

©Keiichi SUTO

桐野 夏生　作家

仁藤夢乃さんとColaboの、街にバスを出すという素晴らしいアイデアに、心底感心しました。実際に街に出て行って、居場所のない、そして行き場のない少女たちに、手を差し伸べること。それも一時的な支援ではなく、彼女たちの心を引き受けること。言葉にするのは簡単でも、それがどんなに大変で、責任のある仕事であるかは、やってみないとわからないことです。私は、仁藤夢乃さんの信念と行動力に、心から尊敬の念を持っています。そして、でき得る限り、支援していきたいと思っています。

水原 希子　俳優

ふと目に留まった仁藤夢乃さんのツイートをキッカケに、Colaboの存在を知りました。家族から虐待など、様々な理由で身に危険を感じ、家に帰る事ができずに居場所を失った女の子達は、性被害の恐怖にさらされる。そんな女の子達に夜の街にバスとテントを張り、自ら声をかけてサポートをしているColaboの活動に感銘を受けています。そして今、コロナの影響で虐待の増加、そして性被害に巻き込まれてしまっている女の子達が増えている現状があります。こんな辛い事に巻き込まれてしまう女の子達を1人でも無くしたい。私も自分の活動を通して、1人でも多くの女の子達が安心して過ごせる様に、彼女達の未来のために一緒に立ち上がります。引き続き、Colaboの活動を応援しています。

安藤 優子　ジャーナリスト

仁藤さんの少女たちを助けるための活動のすごいことは、常に発想が徹底して少女たちの目線、立場にあることです。そしてきわめて現実的です。少女たちがなぜ自らを危険な目にさらさなくては生きていけないのか、どうしてそうなってしまったか、そんな少女たちがほんとうに必要としているものはなにか、彼女は過去の体験から同じ目線で寄り添いながらその答えを見つけようと頑張っています。私は仁藤さんたちのチャレンジ、活動を応援いたします！

松本 俊彦　国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 部長

私はこれまで精神科医として、たくさんの「自分を傷つけずにはいられない」少女たちと出会ってきました。彼女たちは夜の街をあてどなく漂流し、様々な危険な目に遭いながら、いつ死んでもおかしくない生き方をしていました。そして、みんなきまって助けを求めるのがとても下手くそでした――一番しんどい状況のときには病院に姿を見せず、嵐が過ぎ去って少しだけ楽になった頃に、「すごく大変だった」と報告しにやってくる――そんな感じです。それでも、来てくれるのはよいのです。気になるのは、途中からずっと姿を見せないままでいる子たちです。あの子たちは今どこで何をしているのか――。こうした少女たちを救うには、病院や行政だけでは不可能です。夜の街に直接出向き、彼女たちと同じ目線、同じ言葉で語りかけ、手を差し出してくれる人が必要です。私は、そのようなColaboの活動を応援しています。

©Maki Ishii

石内 都　写真家

少女という一瞬をどうやっていきるのか、すべての女にとって大きな通過点だ。少女は常に分断され孤立し、いたぶられる。それをはねのける力は一人の少女の中には無い。家族も社会も国家も少女を一人の人間としてみていない。その少女を理解出来るのはかつて少女だった私達だ。　少女が少女であるがまま自然でいられるように。

横田 千代子　婦人保護施設いずみ寮寮長／全国婦人保護施設等連絡協議会会長

Colaboの存在・働きは、居場所を失った女性たちにとっては心強い味方です。私たちも女性支援をしていますが、行政機関（女性相談センター）で措置された女性たちのみの支援です。根拠法を売春防止法として設置されている「婦人保護施設」です。私たちは居場所のない女性たちを直接支援することが出来ません。いつも歯がゆく思っています。Colaboの活動も、本来、私たちが踏み出さねばならない事業だと思います。行政の後ろ盾もなく今にある活動まで積みかさねられた働きに心から敬意を表します。「受け止めてくれる場所がある」「今晩一晩泊まれるところがある」大事な支援です。被害から身を守ります。Colaboの働きと連携できるシステムが欲しいです。小さな灯が大きな社会の動きにつながる日を待ち望み、祈ります。

2021年度、新宿歌舞伎町に新たな活動拠点をオープンしました。

女の子たちがくつろげるラウンジや、仮眠できるベッドルームも作りました。

家にいられない、帰るところがない時、ホテルに無料で宿泊できます。

ピルの服用やアフターピルの処方について、力になってくれる連携病院があります。

お金の心配はいりません。必要な方ご本人から、気軽にご連絡ください。

村上龍氏推薦！

難民高校生

絶望社会を生き抜く「私たち」のリアル

仁藤夢乃

高校時代、私は渋谷で月25日を過ごす"難民高校生"だった。
―家庭・学校のつながりを失い、渋谷を彷徨っていた中高時代。やりたいことも夢も失くし、学校を中退。妊娠、中絶、DV、リストカット、自殺未遂…。私の周りには、そんな子がたくさんいた。人生に絶望した私の前に現れたのは、一人の講師だった―

英治出版　￥1,500円（税別）
ちくま文庫　￥780円（税別）

2016年、ちくま文庫から文庫化されました！

台湾でも翻訳版が出版されています！

女子高生の裏社会

「関係性の貧困」に生きる少女たち

仁藤夢乃

「うちの子には関係ない」「うちの地域は安全だ」そう思っている大人にこそ、読んでほしい。「女子高生」を狙うJK産業で働く少女たちの身に何が起きているのか。少女たちの本音から、解決策を探る。

光文社新書　￥760円（税別）

会員になって活動を支えてください！

年6,000円（月500円）から継続的に活動を応援していただくサポーターを募集しています。私たちの理念・活動にご共感いただいた方、ぜひご支援よろしくお願いいたします。

会員特典

①女の子の想いや日々の活動を伝えるColabo通信をお届け（不定期）
②活動報告会へのご招待や、街歩きツアーなどの研修割引

シェルターオーナーになりませんか？

虐待などを背景に少女が家に帰ることができない、家にいられないとき、駆け込める場所として開設しています。シェルターは、みなさまからのご寄付で運営しています。1口で1日の運営費をまかなえます。オーナーとして、ご希望の方は報告書にお名前を掲載させていただきます。ご支援よろしくお願いします。

1口: 30,000円 …1口で、シェルターの1日オーナーになることができます。365日開設を目指し、支援を募っています。

Twitter

@colabo_official

Instagram

@colabo.official

講演のご依頼・お問い合わせ

Colabo

一般社団法人 Colabo

URL　https://colabo-official.net/

メール　info@colabo-official.net

スマホ・携帯はこちらから